

2024年12月19日 Vol.234

### ゆく年くる年、来年はどうなる

令和6年もあと1週間余りで大晦日を迎えようとしている忙しい年の瀬です。今年の株式相場の立会は30日3時半まで。今回は今年1年を振り返りながら来る新年に思いを馳せることにしたいと思います。昨年末と比べた日経平均は16%程度の上昇。TOPIXは15%程度とこれらはこのところ調整気味のNYダウの上昇率(15%)とさほど違いはありませんが、このところのNASDAQは急上昇。2万ポイント台乗せとなり昨年末に比べ34%の上昇を見せています。トランプ政権の要職に就いたイーロンマスク氏率いるテスラ株の急騰が背景にあるものと考えられます。そのテスラ株は昨年末に比べ、2倍近くまで上昇。今年最大の株価上昇となったNVDAも2.6倍となっていますが、このところは一服の動き。それに代わってリード役となったテスラ株の急騰が今年の米国株高を象徴しています。

為替相場が円安と見られる中で日経平均は7月に4万2000円台まで上昇したのですが、その後は8月5日安値3万1000円台まで急落。日銀の利上げが契機になり円高への動きが見られたことが背景にあると考えられますが、年末はまた円安に向かって動いています。米国の利下げピッチが鈍ったことと日銀の利上げが今回は見送られたこともあり、米国の長期債利回りが上昇傾向となる中で円安局面が再来しつつあります。円安の流れを受けドルベースの日経平均は7%程度の上昇に留まっており、外国人投資家の目線では日本株はさほどパフォーマンスが良くなかったとも言えます。

また、IPO市場の動向にも影響しやすいグロース指数は昨年末と比べ10%の値下がり。多くのグロース銘柄が株価の低迷になす術もない状況となりました。個別銘柄の中には2.7倍化した三菱重工や2倍になった日立、7割の上昇を見せたNECなどの輸出関連の好業績大型銘柄がそれぞれ指数を大きく上回る上昇を見せたほか、ファーストリテイリングやソフトバンクグループなどの指数連動しやすい大型株もそれぞれ50%ほどの上昇を見せるなど、大きくリターンを上げることのできた銘柄もありますが、大半の中小型銘柄は低迷状態。途中まで勢いの良かった東京エレクトロニクスやレーザーテックなど一連の半導体関連銘柄も天井をつけて大幅な反動安に向かいました。二極化相場とともにまさに山高ければ谷深しといった展開が見られました。

来る2025年は一体どんな年になるでしょうか。1月20日のトランプ大統領就任を前にして早くも先取りした動きが見られますが、少数与党化で日本の政局は波乱の動きで米国のダイナミックさに比べると萎縮してしまいがちです。とは言え過去の様々な困難を乗り越えてきた日本経済や株式相場ですから、あまりネガティブに捉える必要はないかと思います。インバウンドによって日本の良さが外国人に伝わる中で、日本の技術力や様々な文化、コンテンツなどに基づく企業の成長性、生成AI、DX化に取り込む企業群に対してポジティブな評価がなされると期待されます。IPO企業の中にもそうした視点で成長が見られる企業が数多く存在しています。来年もまた皆様にそうした視点で本コラムからも情報発信して参りたいと思っておりますので宜しくお願いします。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)